

シリーズ 景観 79

旧床几山配水池

No. 42

「みんなで残したい松江の景観400選集」から
景観審議会が特別にお薦めする景観

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



〈築造時の
床几山配水池〉



〈旧床几山
配水池門〉

「門柱をはじめ、中の施設は築造当時のままであり、松江水道発祥の地の歴史的景観としてぜひ残したい場所です。」と推薦いただきました。

床几山配水池は、床几山の山頂付近にあり、大正7年の水道創設時に給水人口5万人の主要施設の一つとして築造されました。その後、水需要の増大により市内各地に施設が造られ、大庭配水池の整備を機に、昭和58年にその役割を終えました。

昭和63年に、この旧床几山配水池にツツジなど花木

の植樹や東屋、トイレの整備がなされ、「花園の里公園」として市民に一部開放となり、平成20年に国土の歴史的景観に寄与しているとして国登録有形文化財に登録されました。

平成30年に通水100周年を迎え、施設の修復や水道100年を紹介するパネルの設置といったリニューアルが行われました。

桜やツツジの美しい景観と一緒に、水道遺構を眺めながら、100年前の松江に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。
【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選 検索